

# *Cita Bamboo Works*







# Oita Bamboo Works



## 目次

- P04 諸富京子さん
- P06 cotake 佐藤美樹子さん
- P08 一木律子さん
- P10 河野幸則さん
- P12 長谷川絢さん
- P14 松田浩樹さん
- P16 商品紹介
- P19 ご注文ガイド

九州に豊富に育つ竹。  
 大分県は温泉と並んで、竹の産地としても有名です。  
 全国の竹林の多くを占める九州の中でも  
 竹細工に適した「真竹（まだけ）」の全国一の産地である大分県は  
 江戸時代に湯治場として別府温泉の名が広まるとともに  
 日用品や土産物として産業が大きく発展し  
 現在でも日本で唯一の竹工芸専門訓練校があるほど竹工芸が盛んな土地です。  
 真竹を時間を掛けて下処理した「白竹」の竹細工。  
 数百年にわたって培われてきた技術を礎に  
 現代に生きる職人たちの感覚を織り込んだ新しい竹細工が、つぎつぎと生まれています。  
 伝統的な手法や素材に懐かしさを感じつつ、  
 洗練されたモダンな佇まいはどこか目に新しく映るものがあります。  
 長く使える道具として、暮らしを彩るアートとして  
 今あらためて生活に取り入れてみたいと思うとびきりの竹工芸  
 大分に暮らす作り手が手仕事で丁寧に仕上げた商品と、作り手の思いをご紹介します。





1\_竹玉作成用の竹ひご。竹を割る前にサンドブラストにかけ、割りはぎをして一本一本手作業で塗装を行う。竹本来のやさしい風合いを残したまま、着色をして仕上げている。2・3・4\_竹玉はベース作るのに10～15分、周りを編んでいくのに1～2時間じっくり考えながら制作する。色の組み合わせは似たパターンになることもあるが、ひごの幅を変えたり、ランダムに編み込んで作っていくため、出来上がったものはそれぞれ唯一の竹玉に。「材料とりのほうが大変なんですよね」（諸富さん）  
4\_こちらは竹のバンゲル。竹の世界は女性ものが多いから、男性向けのものもあればと思い、男性でも女性でも使えるようなハードめなものをデザイン。自身で退色への研究を重ね、独自の着色でより長く使える商品を制作している。



1



profile

モロクロ bamboo product  
 諸富 京子  
 MOROTOMI kyouko  
 大分県別府市の隣、日出町出身、在住。  
 2012年に大分県立竹工芸訓練センターにて竹工芸課を修了。その年からモノクロ bamboo product をスタートし、カラフルな色あいが特長の彼女オリジナルの竹工芸で、アクセサリなど小物を主に制作している。

最初のお客様は、小学生の女の子

竹工芸支援用のインキュベーション型貸し工房である「未来竹房 B1スクエア」にて制作活動を行う諸富さん。得意とする作品は、塗装で着色した竹を使った小物たち。身に着けるアクセサリー作品が多い諸富さんは、白い竹に色味の寂しさを感じ、カラフルな作品を制作するようになりました。染色や漆を使用して色味を加える作品もありますが、紫外線の影響による退色対策として塗装での着色を行っています。「塗料は自分で調合するので好きな色をつけれると。そういうことをやっているのは私くらいなもので、それは珍しいです。私の作品があることで、売り場も賑やかになるように。あまり竹らしくないと言われます。」

別府近くの日出町で生まれ、竹工芸は昔から身近な存在。やがてものづくりの仕事をしたいと思ったときに、地元の工芸である竹工芸を選択されました。現在は別府近辺のお店での販売や、「体験してもらおうのが好き」という思いから、ワークショップの開催をメインに活動をされています。材料を採るところから販売にかけて、すべてのプロセスを自分で決めてやれること。そして自分のペースで仕事ができ、自分が持ちたいと思うようなものを作れることが竹工芸の魅力だと語る諸富さん。「一番最初に買ってくださったお客様は小学生のお客様だったんです。お祭りみたいなイベントの時に、リボン型の髪留めを出したんですけど、小学生の女の子がお小遣い握りしめて「これください」って言ってくれたのはやっぱりうれしかったですね。」

諸富さんのカラフルで賑やかな世界観の作品は、見る人に新しい竹の姿を見せてくれます。「竹のイメージ変えるような、若い人に魅力に思ってもらえるようなもの作っていききたいですね。」

大分県  
 速見郡 日出町  
 hayamigun hijimachi

竹職人

カラフルで華やかなものを

諸富京子さん



大分県  
別府市  
beppushi

竹職人

## MADE IN BEPPU を広める

佐藤美樹子さん



1



### profile

cotake  
佐藤美樹子  
SATO mikiko  
大分県別府市出身。2016年に大分県立竹工芸訓練センター修了後、2017年春に別府ならではの竹製品を扱うショップcotakeをオープン。そこで制作活動や自身の作品や大分県の作家の商品の販売を行っている。

2016年 暮らしの中の竹工芸展 大分合同新聞社社長賞 入賞

### shop data

cotake  
大分県別府市弓ヶ浜町2-28  
営 9:00~17:00  
休 日曜日  
☎ 0977-51-4396

### 竹の素晴らしさを広めたい 調理師から工芸家に転身

別府市の住宅地にある、別府竹細工を扱うショップ「cotake」。店主の佐藤さんは、彼女自身も竹細工の作家であり、イヤリング・ネックレスなどのアクセサリを中心に制作をされています。そんな佐藤さんの商品つけられているのは、「あやなす」という言葉。さまざまの美しいいろどりを示す。美しい模様をつくる。と言う意味を持ったその言葉の通り、竹の美しさが一つの小さな結晶になったかのような佐藤さんの作品は、ひとつひとつ手に取り、その表情を見たくなるような上品な魅力があります。

身近さに、その独自さに気が付いていなかったそう。別府の伝統産業会館へ行った際、今までにない竹工芸品の美しさに出会い、「別府にこんなに素敵な伝統的工芸品があるのを、私のように知らない方も多いのではないかと、もっと知ってほしい」という思いが、職人の道に進み、お店を出すきっかけになりました。年数を重ねていくにつれて色合いになり、使うことにより艶が出てくる竹工芸。その魅力をもっと伝えるために、お店でのワークショップや実演、そして地元の子供たちに向けた学童保育でのワークショップ活動などをされています。温泉で有名な観光地である別府。その町で佐藤さんは、世界中の人に向けて「別府の竹工芸」を日々発信されています。

1\_ 佐藤さんのアクセサリはお客様の好みで選べるように、白竹の美しさを生かしたものと、華やかに色をつけたものの2パターンある。オリジナルのスタンプを押した箱に入れ、アレルギーの方にも配慮した部品を使用するなど、細やかな気配りがされている。2・3\_ ショップ左手には、工房兼ワークショップコーナー。ここで制作活動を行っている。4\_ モビールや四海波の制作をワークショップも開いている。子どもから大人まで大人気。5\_ 貸し切り風呂（予約制）やカフェスペースも設けてある。調理師だった佐藤さんの経験が活かされた、様々な顔を持つショップだ。カウンターの手前にカトラリーなどの小物を、奥に籠やアクセサリなどを展示販売している。







大分県  
別府市  
beppushi

竹職人

## その人に合う籠を

一木律子さん

1\_生活の中で一緒に長く過ごせるものを。見てくれる人に相性の良い籠が見つかるように、様々な竹籠作品を日々制作している。2\_竹籠にレザーのハンドルと布のバックをセットした作品。中の布は季節によって柄や素材を変えたりする。女性らしいやさしさを感じる作品。3\_普段使いに使えるテーブルウェアのお皿たち。4・5\_現在、個人での活動以外に「竹楓舎」のメンバーとしても活動中。



### profile

福籠 fukurou  
一木律子  
ICHIKI ritsuko  
大分県別府市在住。籠をメインに、季節感を取り入れたバッグなど女性らしい感性を活かした作品を制作。

2015年 平成27年度全国伝統的工芸品工房展 入選  
2016年 第52回 暮らしの中の竹工芸展 別府竹製品卸商業組合理事長賞 入選  
2017年 第53回 暮らしの中の竹工芸展 別府竹製品卸商業組合理事長賞 入選

女性らしい感性が光る  
あたたかい暮らしの籠たち

別府八湯の一つである鉄輪（かんなわ）。そこを拠点に作品作りを行う一木さんは、ご結婚を機に別府市で生活をスタート。その後、生涯続けられる仕事として別府の竹細工に興味を持ち、作家活動を始めました。

毎日の暮らしの中で使っているもの。一木さんは、生活にそっと溶け込むような竹籠やテーブルウェア等の作品をメインに制作されています。

昔から様々な道具に姿を変え、人々の暮らしに使われてきた竹。その素材自体魅力的で神秘的に思うと語る一木さん。竹の持つ強さや柔らかさを感じながらヒゴに変え、見る人の相性に合うものが見つかるよう、一つ一つ丁寧に籠を編み上げていきます。「作ったものをこういう風に使ってみたいですとか、こういう風にお花を活けてみましたとかそういう報告をいただけるとうすごく嬉しいなあと思いますね。買ったはいけど箱の中に閉じ込めておくんじゃなくて、実際に使っているとっていただくのが嬉しいです。」

自身の作家活動に加え、グループでの新商品開発事業にも力を入れている一木さん。異素材と組み合わせを考えたり、海外に目を向けた新しい竹工芸はどんなものだろう？というディスカッションを重ねながら、竹工芸の魅力をより広い世界へと発信するため、新商品開発を行っていらっしゃいます。「海外に目を向けていこうっていう波には乗っていきたくも思っています。でも一番は多くの人に使ってもらいたいな、知ってもらいたいっていうのがあるので、色んな人たちに合うようなものをちよとずつ開発できたらなと思っています。」





1\_花六つ目の鉄鉢。「鉄鉢(てっばち、または、てっばつ)」とは、僧が托鉢の時に用いる鉄製の黒い鉢のことだが、竹かごにもこの形を模したものがある。河野さんの鉄鉢は、底の模様(編み方)が花六つ目編みになっている。2・3\_底面の花六つ目編みはもちろんのこと、鉄鉢の外側も2mmという細い竹ひごを使った繊細な編み。河野さんは慣れた手つきですると編み上げていく。4・5\_ひごを採る河野さん。刃で割れ目を入れた後、足の指に挟みさらに竹を裂いていく。最後に竹の角をとり、完成だ。



大分県  
宇佐市 安心院  
usashi ajimu

竹職人

穏やかに、ひたむきに

河野幸則さん

profile

たけのみせ 篋(こう)  
河野幸則  
KOUNO yukinori  
長崎県出身。大分県の安心院在住。2007年に大分県竹工芸・訓練支援センターを修了。花六つ目編みを用いた繊細な作品を多く作り出す。

大分の自然の中に暮らし、一つの編み方と向き合う

大分県の中央部から北西部にかけて位置する盆地。安心院と書いて「あじむ」と読む自然に囲まれたこの土地で、竹工芸に動しむ河野さん。河野さんの手から産み出されるのはバッグからコースターまで様々。しかしそこに共通するのは細かく華やかな「花六つ目編み」という編みです。菊のように見えることから菊六つ目とも呼ばれるその編み方は、驚くほど繊細な作業。2〜3mmの竹ひごで六つ目編みのベースを作り、その上に色のついた竹で編んだもう1枚の六つ目編みを重ね、さらに細いひごを挿して、2枚の六つ目編みを縫い合わせて出来上がります。数々の編み方がある中で、花六つ目編みで多くの作品を作り出す河野さん。「ただ単に、花六つ目編みが好き。竹工芸を学ぶ際、色々な作品を見るとき花六つ目編みはひと際目について、やりたいなっていうのがありました。細かい作業が好きなのもあって、やり出したのが最初です。」自分の心に正直に向き合い、制作に励む日々。河野さんの思いが、ものづくりを通して伝わってきます。





大分県  
竹田市 竹田町  
taketashi taketamachi

竹藝家

## 自分に合っている事

長谷川絢さん

1・2\_長谷川さんが作品作りに用いる技法の「束ね編み」。竹のヒゴを何層かに重ね一束一束を編んで成型される長谷川さんの作品は、竹の持つ弾力性や力強さを感じるものだった。学生のころからこの技法を用いた作品を多く作り出している。3・4\_竹の箸置きやヘアアクセサリーは、竹田の町おこし企画での制作がきっかけで生まれたもの。桐箱に丁寧に詰められている商品は、自分用だけでなく贈り物としても人気。5\_竹田総合学院は、旧竹田中学校。長谷川さんは元家庭科準備室だったところで制作活動を行っている。竹田市では竹林の整備などにも有志で行っており、長谷川さんもその活動に参加。自分で切った竹田の竹での作品作りも行っている。

### profile

長谷川絢

HASEGAWA kei

神奈川県出身。現在は大分県竹田市に在住し、インキュベーション型工房の竹田総合学院にて活動を行う。束ね編みという技法を用いた花籠やオブジェ作品のほか、箸置きやヘアアクセサリーなどの女性らしい作品を制作している。

- 2007年 第11回卒業・修了制作展(財)京都伝統工芸産業支援センター 佳作
- 2008年 第12回卒業・修了制作展(財)伝統的工芸品産業振興協会会長賞
- 2009年 第13回卒業・修了制作展(財)京都伝統工芸産業支援センター 佳作
- 2014年 第19回全国竹芸展 審査委員会特別賞
- 2015年 第20回全国竹芸展 二十回記念特別賞
- 2016年 第38回日本新工芸展 入選  
第37回九州新工芸展 入選
- 2017年 第39回日本新工芸展 入選  
第38回九州新工芸展 熊本県知事賞
- 2017年 第22回 全国竹芸展 最優秀賞

### 足して成型していく

#### 竹工芸の魅力

大分県竹田市にある、インキュベーション型工房の「竹田総合学院」。元々中学校であった建物の家庭科準備室にて制作活動を行うのは、神奈川県出身の長谷川さん。「竹田にわたっては4年前で、この場所を拠点に活躍されている竹藝家の方が紹介されているのを聞いて、巡り巡って。制作環境が抜群、緑がいっぱいなのもいい。」  
手で作る仕事、目の前に形として表れてくれるような仕事があった。高校を卒業して、長谷川さんが抱いたのはそういう思いでした。専門学校へ進み、周りに様々な工芸がある中で、何を選択するか。自身が続けやすい条件や周りの人・先生などの環境。それらの要素を重ね合わせて、選択されたのが竹工芸です。「自分に合ってるなと思うのは、例えば彫刻のように彫って進めていくのではなくて、足して成型していくところ。」

これからキャリアを積んでいくにあたり、作品を制作し公募展出品などによる研鑽経験を重ねている段階であると語る長谷川さん。その活動のほかに、箸置きやアクセサリーなどの商品づくりや、ワークショップ活動も行っている。「あとはまだ漠然とした目標なんですけど……以前、青年海外協力隊で、小さな村の収益向上を目的に竹工芸を教えに行っていたんです。南米がすごく好きなので、中南米にかかわって、なにかクロスしてやってみたいって気持ちがあります。具体的に動き出すのはもう少し先になってしまいかもしませんが、考えていきたいです。」



大分県  
別府市  
beppushi

竹職人

## 暮らしに寄り添うものを作る

松田浩樹さん



### profile

松田浩樹

MATSUDA hiroki

大分県別府市出身。美大への入学とともに上京。卒業後は仕事とものづくりを両立して行う。9年前に別府に帰省後、大分県竹芸・訓練支援センターなどで竹芸を学んだ後制作活動に入り、3年前から大分県立竹芸訓練センターの非常勤講師を務める。

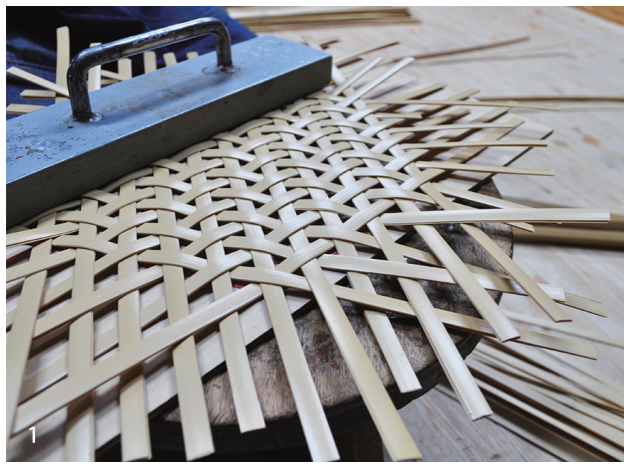


人に使ってもらって、  
ものとして成立する

はじめはものづくりがたく、高校卒業後東京の美大へ行き、素材を問わず創作活動を行っていた松田さん。やがて大分に戻ってくるきっかけがあり、それならば地域の産業である竹芸をしようと、別府の地で活動を始めます。「父親が訓練校の指導員だったのもあり、小さい時から竹芸品が家の中にあっただっていうのも理由の一つ。竹という素材の魅力や網目の美しさに惹かれました。」  
松田さんの作品は竹ひごのつややかな光沢と、しっかりとした丈夫さを合わせた持つたシンプルなものとして仕上げられており、実直な姿勢で取り組む松田さんの丁寧な姿勢が伺えます。仕上がりにより美しくなるよう、正確な

ひご取りを心がけているそうです。「ひご取りは大事ですね。最初の工程が最終的な仕上りを大きく左右するので、丁寧にじっくり行う必要がある。ちゃんと正確に取らないと仕上がりも汚くなってしまう。」ひごの幅や厚みに至るまで納得の仕上りを目指し試作を重ね、松田さんの作品が出来上がっています。現在は自身の活動の他に、大分県立竹芸訓練センターで講師を務める松田さん。訓練生に教えることで、自身も改めて学び、新しい発見があると語ります。「人に使ってもらって、ものとして成立すると思っています。今後も自分が作ったものを使ってくれる人がいるということとを誇りに、目の前のことをこつこつやって行きたいと思っています。」

1・2・3\_松田さんの盛皿や丸皿は、型紙のようなものを自作し、その上から線に合わせて編み上げられていく。型紙に合わせて作ることで、手作業ながらもひとつひとつ近いクオリティーのものが出来上がっていく。4\_竹は一本のひごを作るのも、多くの手間が掛かる。ノコギリで竹を切って割り、皮(外側・表)と身(内側・裏)を裂いて剥ぎ(はぎ)という作業を行う。(写真は剥ぎを行う松田さん。)この段階でほぼ竹ひごの厚みと幅が決まるが、なるべくがっちりした作品を作りたいと語る松田さんは編みの加工ができるぎりぎりの厚みで制作をしている。







**cotake**  
あやなす ロングピアス  
ネックレス

さまざまな美しいいろどりを示す。美しい模様をつくる。という意味を持つ「あやなす」。竹のひとごとひとごとが重なり合い、美しい球体を織成しています。

423669  
あやなす ロングピアス(白)  
本体寸法: φ1.2(5.5)cm 箱入

423674  
あやなす ネックレス(白/赤/緑/紺)  
本体寸法: φ3cm 紐部分 70cm(サイズ調整可能) 箱入



**cotake**  
あやなす 金粉仕上げピアス  
金粉仕上げネックレス

あやなすシリーズのアクセサリーに金粉をあしらった仕上げをしています。高級感のある色合いに、金粉が耳元や胸元でキラキラ輝きます。特別な日のコーディネートにオススメできる逸品です。

423670  
あやなす 金粉仕上げピアス(黒/赤)  
本体寸法: φ2.5(4.5)cm 箱入

423671  
あやなす 金粉仕上げネックレス(黒/赤)  
本体寸法: φ3cm 紐部分 70cm(サイズ調整可能) 箱入



**長谷川絢**  
竹のはしおき(2個組)

竹のひとごを組み合わせたかわいらしい形のお箸置き。真ん中より少し上を結び、お箸を置いたときに安定するようになっています。

423665  
竹のはしおき(2個組)  
本体寸法: W5.5×D1×H0.8cm 竹・藤 桐箱入



**長谷川絢**  
竹のかみどめ(赤漆)

赤の鮮やかな色が美しい、竹で編んだお花の髪留めです。浴衣はもちろん、ちょっとしたお出かけにもつけていきたいくなります。漆で仕上げられています。

423664  
竹のかみどめ(赤漆)  
本体寸法: W2.5×D1cm 竹・藤 桐箱入

# Oita Bamboo Works

## 作品紹介

大分県の作家の商品をご紹介します。



**一木律子**  
白竹麻の葉丸皿

テーブルにちょうどいいサイズの竹の皿。メモ紙を入れて重石をのせて使ったり、鍵トレイとして玄関に置いたり。今の暮らしの中でどう使おうかと考える時間も楽しいです。

422925  
白竹麻の葉丸皿  
本体寸法: φ18cm 竹・藤



**一木律子**  
白竹八つ目籠バッグ(籐)(小)

持ち運びにぴったりな大きさです。丈夫かつ軽量ですので、いつでもどこへでも持って出かけたいくなります。頑丈で長持ちするため、経年変化での風合いも◎。長年愛用できる品です。

422926  
白竹八つ目籠バッグ(籐)(小)  
本体寸法: W35×D17×H14(30)cm 竹・藤



**一木律子**  
白竹差し六つ目湯籠

おしゃれな差し六つ目編み。湯籠とは、お風呂グッズをいれるカゴ。底には足がついているので、通気性よく出来ています。お風呂以外でも、収納用品として活躍できそうです。

422923  
白竹差し六つ目湯籠  
本体寸法: W26×D19×H15(27)cm 竹・藤





諸富京子  
花色四海波

動きのあるひごの形状と、特長的な竹ひごのグラデーションが美しい籠です。花籠や小物を入れとして。鮮やかな色を保ったまま、長くお使いいただけます。

423680  
花色四海波(山吹)

本体寸法: φ13×H13cm 竹 箱入

423679  
花色四海波(若草)

本体寸法: φ13×H13cm 竹 箱入



諸富京子  
竹玉ペンダント

様々な色づけられた竹ひごを「やたら編み」という技法で編み上げて竹玉が作られています。竹玉ひとつひとつそれぞれ表情が違いとても美しく仕上がっています。

423689  
竹玉ペンダント

本体寸法: φ3cm 紐部分 60cm(サイズ調整可能)

諸富京子  
プレスレット

竹の硬質かつしなやかな特性を活かし、ひごをまとめてレザーで固定しています。男性でも女性でも使えるデザイン。花色プレスレットはビビットなカラーリングがアクセントになる作品。日常使いに耐えるよう、退色への対策がしっかりされています。



423685  
花色プレスレット(若草)

本体寸法: φ6.5cm 竹・レザー

423686  
花色プレスレット(桃)

本体寸法: φ6.5cm 竹・レザー

423687  
プレスレット(白)

本体寸法: φ6.5cm 竹・レザー

423688  
プレスレット(黒漆)

本体寸法: φ6.5cm 竹・レザー

ご注文ガイド

一点一点作家による手づくり品かつ、天然素材を使用しております。そのため、素材の色合いや風合い、形状、模様、サイズなどは一点ごとに微妙に異なります。表記の寸法は目安としてください。また、印刷の性質上写真と実際の商品では色や質感が異なる場合がありますので、ご了承ください。

ご注文に際してのお願い

- 価格は別紙ご参照ください。
- ご注文の際には、掲載のコード番号・商品名・数量・ご希望納期等を明確にお申しつけ下さい。FAX や電子メールをご利用くだされば一層確実です。
- 本冊子に掲載されている商品は、一部を除きすべて受注生産品です。お届けまでお時間をいただく場合がございます。詳しくはお問合せください。

この冊子について

- 本誌データは 2017 年 10 月現在のものです。
- 改良のため予告なく仕様・価格等を変更することがございます。ご了承ください。
- 本誌の内容を無断で転記、記載、複写することを禁じます。
- 別途消費税がかかります。



423682  
白竹籐巻麻の葉丸皿(小)

本体寸法: φ18×H3cm 竹・籐

松田浩樹  
白竹籐巻麻の葉丸皿

縁の部分が丁寧に籐に巻かれた本格派の手仕事に伝わってくる作品です。深みのあるお皿ですのでパンや野菜など大きなものを入れてもお楽しみ頂けます。

423683  
白竹籐巻麻の葉丸皿(中)

本体寸法: φ21×H4.5cm 竹・籐

423684  
白竹籐巻麻の葉丸皿(大)

本体寸法: φ24×H4.5cm 竹・籐



松田浩樹  
白竹麻の葉盛皿(9寸)

昔から日本人に愛されている伝統的な模様麻の葉。三本のひごが交差する三角形の編み目が特徴です。厳選した竹を使用し、つややかな盛皿に仕上がっています。器としてもアートとしても。

422921  
白竹麻の葉盛皿(9寸)

本体寸法: φ27cm 竹・籐 箱入



河野幸則  
花六つ目円柱

花六つ目編みの丸い筒です。これだけでも存在感がありますが、中にあかりを置けばランプシェードとして、明かりがこぼれる間接照明に。花瓶を囲えばすてきなフラワーベースになります。

281259  
花六つ目シェードカバー(小)

本体寸法: φ12×H14cm 竹・籐

281258  
花六つ目シェードカバー(大)

本体寸法: φ13×H24cm 竹・籐



河野幸則  
花六つ目コースター

ガラスのコップでも、陶磁器のうつわでも、どちらでも竹の色に映えます。また、紙を敷いて小皿の代わりとして和菓子を置いてもすてきです。

281360C  
花六つ目コースター(小)

本体寸法: 12cm 竹・籐

281360B  
花六つ目コースター(大)

本体寸法: 14cm 竹・籐



河野幸則  
花六つ目鉄鉢

お坊さんが托鉢するときの鉄の鉢に見立てて”鉄鉢”。別府伝統の籠です。細いひごで丁寧に編み込まれていて、幾何学模様がとても美しく仕上がっています。底面は華やかな花六つ目編み。

184051  
花六つ目鉄鉢(ミニ)

本体寸法: φ15.5×H6cm 竹

184048  
花六つ目鉄鉢(小)

本体寸法: φ17.5×H7cm 竹

184049  
花六つ目鉄鉢(中)

本体寸法: φ20.5×H8cm 竹

184050  
花六つ目鉄鉢(大)

本体寸法: φ23×H9cm 竹



**YAMASHITA KOGEI INC.**

**[www.yamashita-kogei.com](http://www.yamashita-kogei.com)**

株式会社山下工芸

〒874-0034 大分県別府市上人仲町 13-43

○掲載商品の仕様デザインは予告無く変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。○印刷の都合上、実物と多少色・仕様が異なる場合がございます。○カタログ掲載の寸法は目安です。個体差がございますのでご了承ください。

○カタログ発行：2017年10月